



岡山大学理学部 同窓会会報

Faculty of Science Okayama University Alumni Association



2013.10
第2号

岡山大学理学部同窓会役員名簿

平成25年4月3日現在

役員	氏名	所属等
会長	本水昌二	名誉教授
副会長	田中秀樹	理学部長(教授)
理事	清原一吉	数学科長(教授)
理事	池畑秀一	自然科学研究科(環)教授
理事	市岡優典	物理学科長(教授)
理事	味野道信	物理学科准教授
理事	甲賀研一郎	化学科長(教授)
理事	佐竹恭介	アドミッションセンター教授
理事	多賀正節	生物学科長(教授)
理事	富永晃	生物学科准教授
理事	千葉仁	地球科学科長(教授)
理事	鈴木茂之	地球科学科教授
理事	川本平山	全学同窓会理事
理事	久保園芳博	附属界面科学研究施設長
監事	小林達生	副学部長(教授)
監事	富岡憲治	副学部長(教授)

平成24年度 会計報告

収入金額		支出金額	
摘要	金額	摘要	金額
1 前年度繰越	63,320	1 事業費(内訳)	641,991
2 会費	499,200	(1) 大学同窓会費	50,000
3 寄付金	50,000	(2) ホームカミングデー	1,606
4 総会会費	331,280	(3) 設立総会	451,985
		(4) 同窓会報	134,400
		(5) 定年退職教授送別会	4,000
		2 事務費	56,900
		3 繰越金	244,909
合計	943,800	合計	943,800

■編集後記 「岡山大学Alumni(全学同窓会)」設立のお知らせ

岡山大学は1949年に総合的な教育研究組織と高度な学術水準を持つ国立大学として設立され、既に10万に近い有為な人材を世に送り出しています。その間、卒業生を中心に、各学部・学科にそれぞれの同窓会が組織され、同窓生間の強固な結束を育んできました。設立から60有余年を経て、大学を取り巻く環境が大きく変貌した今日、大学と同窓会が一体となって機能することが極めて重要であるとの認識から、従来の「岡山大学同窓会」を抜本的に改革して、学部・学科の枠を超えた独立した組織として、今秋、「岡山大学Alumni(全学同窓会)」が設立されます。「岡山大学Alumni」は、卒業生だけでなく、在校生、教職員を構成員とする強力なネットワーク組織です。

理学部同窓会会員の皆さんの各方面でのご活躍を祈念するとともに、理学部そして岡山大学の発展と躍進に向けて「岡山大学Alumni」を応援しましょう。

全学同窓会理事 川本平山

お問い合わせ先



岡山大学理学部同窓会事務局

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中三丁目1番1号 岡山大学理学部内
TEL:086-251-7764 FAX:086-251-7777
E-mail:alumni-sci@okayama-u.ac.jp

<http://www.science.okayama-u.ac.jp/alumni-sci/>

【会則】平成24年3月5日 制定

(名称)
第1条 本会は、岡山大学理学部同窓会(以下、「本会」という。)と称する。

(目的)
第2条 本会は、会員相互の親睦・情報交換、並びに資質の向上を図り、併せて岡山大学理学部及び自然科学研究科の発展を目的とする。

(事業)
第3条 本会は、目的を達成するために次の活動を行う。
一 総会の開催
二 会報の発行
三 会員名簿の管理
四 その他、本会の目的達成に必要な事項

(構成)
第4条 本会は、所在地を岡山市北区津島中三丁目1-1岡山大学理学部内に置く。
2 本会は、事務局を設け、事務職員を置くことができる。
3 本会は、必要な学科並びに地域に支部を設置することができる。支部には代表者を置く。

(学科同窓会)
第5条 本会は、学科及びそれに関連する大学院卒業生で別に組織する同窓会(以下「学科同窓会」という。)と連携協力を得て、本会の事業を行う。

(会員)
第6条 本会は、次の項に掲げる会員をもって構成する。
一 正会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の卒業生・修了生
二 学生会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の在学学生
学生会員は、卒業することにより正会員となる。
三 特別会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の教員及び技術職員並びに事務(室)長として在職した、又は在職する者
その他、理事会において入会を認めた者
2 本会の会員は、氏名・住所・電話番号・勤務先・メールアドレスなどの変更が生じたときは、本会事務局に届け出るものとする。

(学科同窓会の会員)
第6条の2 学科同窓会の会員は、本会の正会員に準じて取り扱うこととし、その取扱いは別に定める。

(役員)
第7条 本会に、次の役員をおく。
一 会長 1名
二 副会長 1名
三 理事 若干名
四 監事 2名

第8条 役員の仕事は次のとおり定める。
一 会長は、会務を総括する。
二 副会長は、会長を補佐し、事務局を統括する。
三 理事は、会長に協力し、会務を執行する。
四 理事は、各学科会員を代表し、本会と各学科会員との相互連絡にあたる。
五 理事は、本会の目的達成に必要な業務(総務・会計・広報・名簿管理等)を分担する。
六 監事は、会計及び会務を監査する。
第9条 役員の出選方法は次のとおり定める。
一 会長は、会員の中から推薦するものとし、理事会で選出する。
二 副会長は、岡山大学理学部長をもってあてることとする。
三 理事は、学科毎に学科長を含めて2名程度とし、理事会で選出する。
四 監事は、理事会で選出する。
五 会長、副会長、理事、監事の任期は2年とし、再任を妨げない。

(会議)
第10条 会議は、総会、理事会及び役員会とする。
第11条 総会は、本会の重要事項について審議が必要な場合において、理事会の議を経て、会長がこれを召集する。
第12条 理事会は、会長、副会長、理事及び監事を以て組織し、会長がこれを召集する。
2 理事会の議長は会長または副会長が充てる。
3 理事会は、年1回以上開催し、次の各号に掲げる事項を審議する。
一 会則及び施行細則の改正に関する事項。
二 会務及び業務報告に関する事項。
三 決算承認及び予算の議決に関する事項。
四 その他、役員会において必要と認めた事項。
4 理事会は役員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。
第13条 役員会は、会長・副会長で構成する。
2 役員会は、本会の会務の企画又は執行の必要に応じて随時開催し、協議の結果は理事会に提案並びに報告をする。

(会計)
第14条 本会の運営に要する経費は、会費・寄付金・その他の収入をもってあてる。
第15条 本会の会費を次のとおり定める。
一 正会員は、入会金(終身会費)5,000円を納付するものとする。ただし、既に学生会員である者の入会金は不要とする。
二 学生会員は、入会金(終身会費)5,000円を入学時に納付するものとする。
三 既に学科同窓会の会員であった本会に入会する者は、その入会金を免除する。
四 会費の納付方法については、別に定める。
第16条 本会の運営に要する経費にあてるため、会員及び学科同窓会等から寄付金を受領することができる。
第17条 会計担当理事は毎年、理事会或いは会報で本会の会計を報告する。
第18条 監事は、毎年本会の会計を監査する。
第19条 会計担当理事は、正会員の要求があれば会計帳簿を随時公開しなければならない。
第20条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(雑則)
第21条 この会則に定めるほか、本会に関して必要な事項は、理事会の議を経て別に定めることができる。
2 理事会は、会則等重要な規定の改正を会報により報告するものとする。

(附則)
1 この会則は、平成24年3月5日から施行する。
2 この会則は、平成24年3月卒業生から適用する。
3 会計管理は、事務局が行い代表者は事務局長とする。

岡山大学理学部同窓会は2012年3月に設立され、皆様のご協力によりその機能が順次進んでいます。理学部は1949年の創設以来、自然界の諸法則の発見・理解とその体系化を目指し、基礎学術の発展とその将来を担う学生の教育を受け持つてまいりました。この理学部としての教育と研究の役割は変わることなく継続し、現在では600名の学生収容定員を擁する学部へと成長してまいりました。

近年、理学部では多くの個人や小グループの活躍により、世界をリードする研究が進められ、それらの研究成果は高く評価されています。事実、全国の22大学の1つに選抜されたResearch Univ.における研究プロジェクトでは、理学部に関係の深いエネルギー環境新素材拠点・光合成研究センター・量子宇宙研究センターが中心的役割を担い、また教育関係共同利用拠点の臨海実験所は研究資源の提供でも貢献しています。

理学部同窓会初代会長の山本啓司元学部長が本年1月にご逝去されました。そのために、新会長の人選をすすめる、本学部出身の本水昌二名誉教授に就任いただきました。山本先生は、本会の設立や運営への献身的なご尽力により、同窓会の基礎を築いてくださいました。山本先生のご功績に感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。



岡山大学理学部長
田中 秀樹

理学部卒業生の皆様が本同窓会のもとで交流や情報交換により一層の親睦が深められ、皆様と同窓会が益々発展されることをお祈りいたします。また、今後とも理学部に対して温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

理学部との出会い

理学部同窓会は、関係各位のご尽力により順調に発展し、このたび同窓会会報第2号発刊の運びとなりました。これを機に同窓会員の相互理解、連携が一層進展し、会がますます発展することを願っております。

私は1962年(昭和37年)に理学部化学科に入学しました。定員25名で同期生とは初めての出会いでしたが、化学、物理学、ドイツ語等、同一行動が多く、相互扶助の恩恵をたくさん受けました。当時、体育は半期・週一回の必修科目でした。運動部でも単位取得可能という粋なはからいもあり、私も部(馬術部)に入りました。丁度岡山国体の年で、夏合宿は大変きつ、1単位では割に合わないな、と思いました。津島キャンパスの国体本番では“使役”でしたが、一流の術を目の当たりにし、これが最後まで部活を続ける原動力になったと思います。2、3年次の週2回の化学実験と時間的制約の多い部活でしたが、一方的相互扶助のおかげで同期全員と一緒に卒業は、今もって喜びひとしおです。当時は熱心な先生の夏季補講もありましたが、自主的参加者は結構いました。研究面では、厳しい予算下でも先生方の“アイデアで勝負”、“チャレンジ精神旺盛な気概”、そして“弛み無き継続の力”を拝見させていただき、私の人生・人生観も大きな影響を受けたと思います。

その後縁あり理学部で定年を迎えました。この間、1987年には自然科学研究科が設置され、理学部の教育・研究が飛躍的に発展したのはご承知のとおりです。

今後ともグローバル化社会で世界に誇れる理学部の教育・研究、世界に飛躍する同窓生に期待し、且つ同窓会員の皆様方のますますのご活躍を祈念いたします。

最後になりましたが、今後とも理学部同窓会の一層の発展にご支援賜りますようお願い申し上げます。

岡山大学理学部同窓会 会長
(昭和43年大学院修士課程修了)
本水 昌二



▼活動報告

2013.10.19 理学部同窓会を開催

2013. 9. 4 理事会開催

2013. 3. 6 理事会開催

2012.10.20 設立記念総会ならびに懇親会開催

2012. 7. 4 理事会開催

2012. 5.25 ホームページを公開

2012. 3. 5 岡山大学理学部同窓会設立



各学科近況報告

数学科 Department of Mathematics



数学科ではこの3月末をもって、解析学の田村英男教授が定年退職され、また8月末には、整数論の中村博昭教授が大阪大学へ転任されました。両教授とも日本数学会の賞を受賞された優れた研究者であり、我が数学科としても残念な事ではありましたが、幸いその代わりに4月からは解析学の谷口雅治教授が赴任され、また10月からは代数学の橋本光靖教授が赴任されることになっています。谷口教授の専門は「非線形拡散方程式」、橋本教授の専門は「不変式論」です。新しいフレッシュなスタッフを得て、数学教室の学生・院生にも新たな良い刺激になるものと大いに期待しています。

今年も学部、3年次編入、大学院と、入学試験も順調に行われ、数学科の倍率もますますでした。こここのところ、世の中の全般的な風潮として、

数学(科)への指向に手堅いものがあると感じています。特に3年次編入では、かつては高専卒業生が受験するケースがほとんどでしたが、最近では、他大学2、3年次からの編入、大学卒業後の挑戦、あるいは文系学科からの転向など、ヴァリエーションにとんでいます。卒業後の進路も、中学高校の教員を目指す学生が多いのは変わりませんが、研究者を目指す学生もだんだんと出て来ています。



数学科長 清原一吉

物理学科 Department of Physics



物理学科では超伝導などの物質科学、放射光実験、宇宙素粒子物理学等の研究に取り組み、教員とともに4年生・大学院生が活躍しています。最近では、鉄系など新超伝導物質の発見、次世代型太陽電池の開発、超新星背景ニュートリノ検出予備実験が報道されました。また、フロンティアサイエンティスト特別コースの物理学科生がサイエンス・インカレに出場するなど学生達も頑張っています。今年度の教員異動では4月に岡田耕三先生が教授に昇任、東大神岡宇宙素粒子研究施設から小汐由介先生が准教授に着任しました。なお来春には大嶋孝吉教授が退職の予定です。物理学科の近況は物理学科のホームページにも掲載しておりますのでご覧ください。



物理学科長 市岡優典

VOICE 卒業生からの声

私は物理学科に2002年4月に入学しました。早期卒業の制度を利用して3年で卒業した後、町田一成教授の研究室で修士・博士課程を過ごし、2010年3月まで岡山大学でお世話になりました。入学当初、推薦入学の私には授業が分からず、途方に暮れたことを覚えています。しかし、友人や先生に教えてもらうなどして、四苦八苦しながらだんだん内容が理解できるようになりました。最初は分からなかったことが、理解することを諦めずに向かっていくことで乗り越えることができた、その経験が自信につながっています。



現在は学習院大学で助教に就き、研究と授業に追われて忙しく過ごしています。研究の方は、なかなか大変でうまくいくことばかりではありません。岡山大学時代に培った粘り強さで、諦めず前向きに、現在進行形、がんばっています!

高橋雅裕 (平成17年卒業)

地球科学科 Department of Earth Sciences



地球科学科は、25名の新生入生と1名の三年次への転学部生を迎えました。5月に新生入学外研修で淡路島を一泊二日で訪れ、岩石や断層の観察を行って地球科学への勉強意欲を高めました。今年度、国立環境研究所から野沢徹教授が、九州大学から竹中博士教授

が着任されました。野沢教授の専門は気象学・気候学で、地球温暖化予測の研究を行われており、IPCCの報告書作成にも関わっています。竹中教授は地震学・地震防災が専門で、地震波動に関する研究を行われています。学科に隕石のコレクションが加わりました。リフレッシュルームに常時展示していますし、オープンスクールなどでは実際に触ることも可能です。同窓生の皆様にも見て頂きたいと思えます。



地球科学科長 千葉仁

VOICE 卒業生からの声

近年、鈴木茂之研究室では高梁市成羽美術館に協力し、館所蔵の化石標本の整理や、その化石標本を活用した特別展のお手伝いを行って来ました。昨年は成羽美術館から「成羽の化石ハンドブック」を刊行しましたし、今夏は成羽美術館、林原自然科学博物館、岡山大学理学部の標本を展示した特別展を成羽美術館にて開催しました。特別展は、なかなかの盛況ぶりでした。岡大からは、地球科学科と鈴木研究室で所蔵している化石標本13点を貸出しました。地球科では、化石標本の他にも逸見先生らが研究された世界でも誇れる鉱物の良標本を多く所蔵しています。それら標本の管理や展示・教育活用にも取り組む必要があるのではないかと感じているところです。

博士課程 湯川弘一 (平成21年卒業)



川崎菜穂子
平成19年化学科卒業

私は今から約10年前の2003年4月に岡山大学理学部化学科に入学しました。学部生4年から博士前期(修士)課程を卒業するまでの3年間は、理学部附属界面科学研究施設 粉体物性学研究室において有機薄膜トランジスタの研究を行いました。化学科でしたので有機物については学部生の間に基礎を学びましたが、デバイス物理については知識がなく、まったく未知の事柄にチャレンジしてみたいという思いから研究室の門を叩きました。まずデバイス物理の基礎理論を学ぶことから始める必要があったため苦労もりましたが、今思い返すと非常に良い経験でした。

現在は、愛媛県にある住友化学株式会社 大江工場にて有機ELデバイスの研究を行っています。有機ELは次世代のディスプレイや照明として注目されており、とてもやりがいのある分野なのですが、技術開発には新規性やスピードが要求されます。そのような開発業務では大学時代に学んだ知識自体も役立っていますが、何よりも積み重ねて身に付けた研究の進め方や実験の手法が現在の私を支えてくれています。また、研究室在籍中に数多く発表の機会をいただきましたが、社会人になってからも研究成果を発表したり展示会等で開発品の説明を行ったりする場面が予想以上に多く、その時には過去の発表経験が私に自信を与えてくれています。休日には同期と牡蠣焼きにいたり、職場のメンバーと西日本最高峰である石鎚山登山にチャレンジしたりと充実した毎日を送っています。

化学科 Department of Chemistry



現在、化学科には22名の教員が所属しています。理学部附属界面科学研究施設の化学系教員も含めると、26名になります。2013年4月には豊橋技術科学大学から墨智成准教授(理論物理化学分野)が着任し、理論系教員が4名となりました。最近注目を浴びた研究成果として、松本正和准教授らが発表した氷の融解についての論文(Nature, 2013年)があります。分子シミュレーションと新しい解析方法を駆使し、結晶表面ではなく、内部から「氷が融ける」現象の初期過程を明らかにしたものです。また、化学科卒業生であり、無機化学研究室の織田晃さん(修士課程:当時・以下同様)と鳥越裕恵さん(博士課程)らは室温付近で水素分子を活性化するゼオライトを見出し、その機構を明らかにし、2012年、Ang. Chem. Int. Ed.に発表しました。ごく最近では、錯体化学研究室の三橋了爾さん(博士課程)らが、ルテニウムイオンに配位結合したテトラヒドロピリミジン基が温和な条件下でピリミジン基に変換されることを明らかにし、Inorganic Chemistryに報告しました。ここに紹介したものはほんの一例であり、化学系の教員、研究員、大学院生は物理化学、有機化学、無機・分析化学の基礎研究に従事し、その成果を発表しつづけています。

化学科は国際交流を通じた研究・教育活動も活発に推進しています。2012年11月にはコペンハーゲン大学化学科との国際シンポジウムを開催し、双方から多くの学生と教員が参加・発表し、熱心な議論が交わされ、その後も共同研究、短期留学の関係が続いています。国立台湾大学と岡山大学の間で交互に学生・教員が訪問するというユニークな国際ワークショップ(集中講義形式の授業)は今年で第4回目を迎え、9月に岡山大学にて開催されました。双方の学生・教員にとって意義深い取り組みが続いています。

このように理学部化学科の構成員は日々独創的研究と教育活動に取り組んでいます。同窓生の皆様がますますご活躍されることをお祈りいたしますと共に、今後ともご支援の程よろしくお祈りいたします。



化学科長 甲賀研一郎

生物学科 Department of Biology



昨年から今年にかけての教員の異動は、本瀬宏康助教の准教授昇任、中安博司准教授の早期退職(健康上の理由)、御奥真穂、西村美保両特任助教の助教への採用がありました。その結果、現在の陣容は、教員総数19名、事務担当非



生物学科長 多賀正節

VOICE 卒業生からの声

私は2002年4月に理学部生物学科に入学し、2012年3月に博士課程を終了するまで10年間学生として在籍しました。

卒業研究・修士課程では竹内栄准教授の下で鳥類の羽色調節の研究を行いました。この間の実験や先輩・後輩との交流といった研究室生活から、私は知識だけでなく研究に対する姿勢など教科書を読むだけでは分からない多くのことを学びました。博士課程では医学部で研究に携わることになりましたが、理学部での経験があったからこそ博士論文に値する研究をさせてもらえたと思っています。

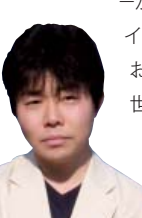


田代雄一 (平成18年卒業)

附属臨海実験所 Marine Institute



「日本のエーゲ海」牛窓にある附属臨海実験所は、文部科学省認定共同利用拠点として、実験生物学における最先端の機器、飼育設備、3隻目の実習船など充実した研究、教育環境が整いました。交通の利便性、多様な海産動物が入手可能な好環境とあわせ、現在はハワイ大学、東京大学等との共同研究が活発に展開されています。生物学科対象の臨海実習1-3、学内外向けの公開臨海実習では、伝統的、基礎的な面を残しながらも先端的な内容も加えられ、特に公開臨海実習では、魚類を材料とした気鋭の研究者を招いての楽しい実習メニューが組み込まれています。ニンジンイソギンチャク(写真)など他ではお目にかかれない動物に、生物の世界の多様性を実感しています。



所長 坂本竜哉

附属界面科学研究施設 Laboratory for Surface Science



界面科学は、資源・エネルギー・環境問題の解決の鍵を握る研究分野として期待されています。物質と物質の境界領域を界面と呼びます。界面は、一様な固体全体の示す性質とは異なる新規な性質を示すことが知られています。それらの性質(機能)は既に私たちの生活の至る所に利用されており、新たな機能の探索や開発に関する研究が活発に行われています。界面科学研究施設では、薄膜物性学部門(物理系)と粉体物性学部門(化学系)の教員が、省資源、環境・エネルギーへの貢献を目指し、役に立つ薄膜物質の開発、界面評価並びに制御手法の確立、機能性微粒子の創成と評価等の研究を行っています。その研究成果はNature誌等の世界のトップジャーナルに掲載されています。



施設長 久保園芳博

附属量子宇宙研究センター Research Center of Quantum Universe



量子宇宙研究センターは、原子を利用してニュートリノに関する未知の性質を究明し、これを手がかりに物質優勢(反物質が無い)宇宙の成り立ちを理解することを目標としています。通常、素粒子実験には巨大な加速器や検出器を用います。私たちの方法は、学内の実験室において原子や分子にレーザー光を照射し、その反応からニュートリノの性質を明らかにするものです。このコンセプトは「量子干渉を利用して反応を増幅する」という岡山大学から発信している新しい工夫です。素粒子、宇宙、量子物理の3研究部門にセンター専任の教員1名、物理学科と化学科、極限量子研究コアからの教員6名が所属し、この実証実験に取り組んでいます。



センター長 野原実